

「ピカッと輝くまちづくり」を語るろう!

「住んでよかった 生まれてよかったまちへ
住まいるタウン滑川」を目指す滑川町。
さらに元気なまち、ワクワクするまち、
“ピカッと輝くまちづくり”に向けて、
大塚町長が町民の皆さんと語り合いました。

Discussion between the Town's Mayor and Residents

Namegawa Town aims to be a town of smiles that people are glad to live in and will be happy to have been born in.
Mayor Otsuka spoke with representatives of the Town's residents about how to create an even more vibrant, exciting, and brightly shining town.



滑川町長
大塚 信一

令和4年10月、滑川町長に就任。
一期目の町政運営に邁進中。



岩崎 千恵子さん

日本食育協会の食育指導士として活動。はあとキッチン主宰。6年前から伊古の農家レストランで郷土食を提供。



吉野 さつきさん

一般社団法人あんどで学童保育や子育て支援拠点を運営。育児相談や居場所事業も展開。だれでも集える居場所づくりが目標。



島田 郁生さん

平成27年に設立した谷津田米生産者組合の組合長を務める。令和5年10月、合同会社谷津田米として法人化。



小林 健治さん

令和5年度から下福田地区の区長と、滑川町区長会の会長を務める。地区の防災やコミュニティ活動に尽力。

★ 小林 飲み水はひとまず安心なのでね。
下福田では、災害で電気やガスが使えなくなった場合に備え、お祭りの際に先輩方の指導によりPTAの役員さんが、釜でご飯を炊いておにぎりを作っています。

★ 岩崎 それは、いざというときのために、いい経験になりますね。
小林 釜でなくてもキャンプの時に使う飯盒いぼくでもいい。防災倉庫に備えてほしいという希望もあります。

★ 島田 谷津田米生産者組合では、非常時に米を提供する協定を町と結んでありますよ。
吉野 先日、学童の子どもたちに町長がうどんづくりを教えてくださいましたのですが、そんな体験が非常時にも役立つかもしれませんね。



約半年分の飲料水を貯水できる配水池

★ 町長 子どもたちの反応がすごくよかったので、今後も続けたいと思っています。
備蓄については、町でも準備していますが、備蓄量に限りがあり町民全員に行きわたる量を確保するのは難しいのが現状なので、各家庭で日頃から備えていただければと思います。

また、自主防災組織は、平成7年の阪神淡路大震災を機に全国的に広がり、滑川町でも立ち上げました。地域の結束は大きな力になるので、うまく運用してほしいのですが、近年のコロナ禍で途絶えた部分もありますね。

生きる力を育む
子育て支援を

★ 町長 滑川町は長年「子育てナンバーワン」の町に向けて、子育て支援に力を入れてきました。その施策が支持されて、今や15歳未満の子どもの人口比は、県内1位、全国でも有数となりました。アンケート調査で「町に住みやすい」という若者世代の回答が、25年前の35%から85%に上昇したことも、いち早く子育て支援に取り組んできた成果ですね。昨年からは遠距離通学の児童向けにスクールバスも整備しました。
子育て支援の現状と今後についてのご意見をお聞かせください。

★ 吉野 公設の学童保育施設が9か所も整備

★ 町長 町長就任以来2年間、「ピカッと輝くまちづくり」をキャッチフレーズに町政を進めてまいりました。最近では持続可能な自治体全国6位といううれしい結果も発表されましたが、さらに「住み続けたい町」であり続けられるよう、皆様のご意見をいただきたいと思っています。

災害に強いまちづくりを
さらに進めたい

★ 町長 まずは、町民の生命・財産を守るのが自治体首長の一番の役目ですから、災害に強いまちづくりについてのご意見を伺い

たいと思います。

★ 小林 近年全国各地で大災害が頻発していて、いざというとき、食べ物や水、電気をどう確保するか心配です。特に心配なのは水ですね。各地区に防災倉庫はありますが、全世帯をまかなう量は保管できません。自主防災組織も多く、地区が任期1年で、ほとんど活動しないうちに終わってしまうのが問題です。

★ 町長 飲料水としての使用に限れば、配水池に常時半年分は貯められます。最近、給水車などのレンタルを展開している企業と提携したので、給水も問題ありません。





町内に9か所設置されている公設の学童保育施設

た。食育は子育てや教育の分母だと思つて
す。電気やガスがなくてもご飯が食べられる
という経験を知っている子どもは、防災にも
つながり、いざというときも安心です。
平成17年に国の食育基本法ができました
が、滑川町でも食育推進基本計画のよう
なものを作れないでしょうか。

町長 確かに食育は大事ですね。職員と協
議しながら考えていきます。

岩崎 給食費の無償化は、今や他市町村も
追随しています。谷津田米給食はもちろ
素晴らしいのですが、もっと先を打ち出す
段階だと思います。子育ても、防災も、農
業も、すべて「食」でつながっていますから。

町長 滑川町ではおいしい谷津田米を生産
している人がいて、それを給食で食べられ
ることの貴重さを教育現場でよく教えても
らいたいと思っています。そうして、子ど
もたちの中から谷津田米を作りたいと思
う子どもが出てくるのが嬉しいです。

農地と谷津田米ブランドを 守りたい

島田 谷津田米の給食を食べた子どもたち
から「おいしかった」という手紙をいただ
くことが生産者のやりがいにつながって
います。その子どもたちが社会人になって、
その味を思い出してもらえればありがたい

ものは、郷土の宝として残してもらいたい
と願っています。

小林 昔は、神社の参道も地域の人々
守っていました。今は事業団に草刈りま
で任せているから、地域のつながりがどん
どん失われているのです。

吉野 様々な機会でも、伝えていかないと貴
重な伝統が途絶えてしまいます。

岩崎 昔を知る人たちが残っているうちに、
語り部的に子どもたちに話してもらおう機
会を設けるのもいいのではないですか。

町長 近年のコロナ禍で、地域のつながり
が一気に失われたのは残念です。人々が集
まって顔見知りになれば、防災上の自助共
助にもつながります。そのためにも、地域



伝統を継承する「下福田の獅子舞」

し、農業関係に進みたいと思つる若者が出
てくれればもつとうれしいですね。

吉野 学童にも谷津田米を提供していただ
き、子どもたちにも大好評でした。

島田 昨年は、猛暑による高温障害で、近
隣の町の米は3等以下になるなど影響を受
けた中、谷津田米はほぼ1等で検査員にも
驚かれました。高価な選別機を導入するなど、
各生産者とも谷津田米のブランドを守るこ
とをモチベーションにがんばっています。

一方で、高齢化と後継者不足が大きな問
題です。基盤整備が終了して大型機械が導
入できるようになったのに、数年のうちに
機械も老朽化して持ちこたえられなくなっ
てくる心配しています。

小林 農業機械が大変高価なので、農業だ
けでは収支が合いません。

岩崎 若者が農業に参入できるように、農機
具のレンタルがあるといいと思つのですが。

島田 私が常々考えているのは、町の職員
から専属の人を出してもらえないかとい
うことです。個人レベルでは農家離れを食
止められませんか。

町長 島田さんのご意見に同感です。町で
農業専門の職員を何人か配属し、そこから
農業で独立する人が出てきてもいい。町が
投資しながら農業を引き継ぎ、農地を守る
という方法です。また、ノウハウのある農

のふれあい事業は何とか維持していただき
たいと思つています。

100年後も存続し続ける ためのまちづくりを

町長 人口戦略会議で、滑川町の人口は今
後も増え続けるという推計が出ました。う
れしいことですが、単に統計的な数字です。
この先を見据えた新たな政策を打ち出して
いかなければ、100年後も存続する町に
はならないと考えています。

まず、「安全な町」と宣言できるように、
直下型地震などを想定して、災害時のレン
タル資材や物流、飲料の自販機、避難所の
提供など、さまざまな企業や民間団体とも
各種災害支援協定を結びました。建設計画
中のコミュニティセンターにも、防災拠点
としての機能を備える予定です。谷津田米
生産組合とも米の支援協定を結んでいます。
町民の皆さんにもご協力いただきながら、
災害に強いまちづくりを今後の政策の目玉
の一つと考えています。

次に、観光ですね。国営武蔵丘陵森林公
園には年間80〜90万人もの来場者がありま
すから、その人たちに「滑川町はいい町
だ」「住んでみたい」と思ってもらえるよう、
園外でも楽しめる魅力あるものを展開した
い。近隣市町村とも連携して、比企地域全
体を魅力ある地域に盛り上げていければと
考えています。

家の方に里親という形で若者に農業を教え
てもらおうのもいいかもしれません。
生産者の皆さんの努力のおかげで、谷津
田米のブランドはすでに確立されています。
さまざまな方のご意見を伺いながら、農地
とブランドを守り続ける方法を模索したい
と思つています。



滑川特産の谷津田米

地域のつながりが伝統の 継承と防災にも

小林 下福田地区では、コロナ禍以来4年
ぶりに区民ふれあいの集いを開催し、とて
も盛況でした。今年初めて開催した「田ん
ぼラグビー」も大変盛り上がりしましたね。

町長 地域の活動が復活したところは、ぜ
ひ続けてもらいたいです。

町民の皆さんのご協力をいただきながら、
魅力あるまちづくりをさらに推進してい
きます。本日は、ありがとうございました。

(令和6年7月2日)



防災拠点の機能も備える新コミュニティセンターの完成予想図



建設中の(仮称)滑川町福祉センター

町長 行政から指示するのは難しいですね。
小林 地区の役員ではなく、保存会の人
運営していますからね。下福田の獅子舞も、
担当地区の皆さんで、竹ひごに花を付けて
万灯を組み立てるのですが、指導者も少な
く苦労しています。夏の獅子舞が終わると
各家庭にその花を一本ずつ配り、床の間に
飾るのですが、そういう伝統を残していく
にはどうしたらいいかと悩んでいます。

岩崎 一度やめたら復活は難しいですよ。
全部でなくても次世代につなげていくべき



地産地消の給食



滑川町文化祭

ピカツと輝くまちへ

これからのまちづくり

2 豊かな心と文化を育むまちづくり

EDUCATION / CULTURE

学校教育では、子どもたち一人一人の個性や意欲を尊重し、情報教育やキャリア教育など社会状況の変化に対応した教育を行っています。また、自然・歴史など本町の地域資源を活かした教育など、特色ある教育内容の充実を図り、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の調和がとれた児童生徒の育成に努めています。

社会教育では、町民一人一人が自己に合った学習活動に親しみ、その個性と能力を伸ばし、生きがいを持って充実した人生が送れるよう、多様なニーズに対応した生涯学習の機会の充実に取り組んでいます。

また、学校・家庭・地域と連携して、スポーツ・レクリエーションの振興、貴重な文化財の保護にも努めています。



教育DX

TOPICS

町と一緒に歩んだイベント「町民スポーツ祭」

町民同士の親睦と体力づくりを目的に実施される「町民スポーツ祭」は、コロナ禍で4年間途絶えたものの、町制施行の翌年から約40年間続けられている秋恒例の一大イベントです。

各地区から年代別に代表選手が出場し、リレーや玉入れ、綱引きなどおなじみの競技が繰り広げられて、地区別対抗戦で優勝を競います。どの地区も、選手はもちろん地域ごとの応援も真剣そのもの。秋空の下、年代を問わずスポーツに親しめるとともに、町民の一体感も高まります。



Community Development that Fosters a Rich Spirit and Culture

In school education, we respect the individuality and motivation of each child and student as we provide information training, career training, and other kinds of education in response to changes in social conditions. We strive to nurture children and students with a harmonious balance between solid academic ability, rich humanity, health and physical strength. In social education, we are working to enhance lifelong learning opportunities that meet diverse needs. We also promote sports and recreation, and work to protect valuable cultural assets.



乳幼児健診

ピカツと輝くまちへ

これからのまちづくり

HEALTH / WELFARE

1 誰もが生涯安心して暮らせるまちづくり



敬老会



健康フェスティバル

誰もが住み慣れた地域で、生涯にわたって安心していきいきと暮らせることは、すべての人々の願いです。滑川町では、保健・医療・福祉の各分野が連携し、地域全体の支え合いのもと、誰もが不安なく日常生活を送れる環境を整え、高齢化・人口減少が進む中においても持続可能な先進予防型のまちづくりを進めています。

「みんなが健康で長寿の町」を標榜し、各地区に健康づくり推進員を置くとともに、健康づくり行動宣言の募集や健康づくり情報の発信にも努めています。

子育て支援に関しては、経済的負担の軽減や地域全体で総合的にサポートする環境づくりを進めています。また、子どもや高齢者、障がい者など社会的に弱い立場の方々にとっても、安全に安心して暮らせる仕組みを整えています。

Building a Town where Everyone Can Live with Peace of Mind throughout their Lives

In Namegawa Town, the fields of health, medical care, and welfare are coordinated to promote sustainable, advanced prevention type development based on mutual support of the entire community. In addition to placing health promotion volunteers in each district, we are also working to solicit health promotion action declarations and disseminate information that promotes health. In addition to further advancing support for child-raising, we have established a system that enables even people in socially vulnerable positions to live safely and with peace of mind.

TOPICS

子育てナンバーワンの町の「地域子育て支援拠点」

合計特殊出生率と年少人口割合県内トップクラスを誇る滑川町。子育てに関して万全のサポート体制が整っています。

地域子育て支援拠点は町内に7か所設置され、主に乳幼児から未就学児を子育て中の親子が利用しています。気軽に集い、安心して子どもを遊ばせながら、親同士の交流の場ともなっています。子育てに関する不安や悩みがある場合にも、常駐する経験豊富なスタッフに相談して、適切なアドバイスを受けられます。





農業まつり

ビカツと輝くまちへ
これからのまちづくり

INFRASTRUCTURE / ENVIRONMENT

3 暮らしやすい快適なまちづくり

豊かな自然を有しつつ、都市基盤の整った安心・安全で便利な暮らしは、住みよいまちの基本です。町北部には水と緑の自然豊かな田園風景が広がり、南部には首都圏にアクセスしやすく利便性の高い住環境が整った滑川町は、「ちょうどいい・ちよつといい・チョイスされる田舎」として若い世代を中心に幅広く支持され、比企地域で唯一人口が増加しています。

今後は、町民・事業者・行政が一体となって環境保全や省資源化に取り組みとともに、交通弱者を支援するためのデマンド交通事業の実施、地域ぐるみでの防災・防犯対策の充実を図り、安心・安全に暮らせる環境づくりに努めます。さらに、それらを将来にわたって維持できるような仕組みを整えます。



交通安全教室



道路整備



工業団地

ビカツと輝くまちへ
これからのまちづくり

INDUSTRY / ECONOMY

4 特性を生かした活力ある産業のまちづくり

滑川町では、首都圏へのアクセスのしやすさと豊かな自然環境という強みを生かし、活力ある産業のまちづくりを目指しています。基幹産業である農業は、時代の変化に対応しながら安定的な農業経営を支援します。令和5年1月に「比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システム」が日本農業遺産に認定されたことを機に、「谷津田米」のさらなるブランド力向上に努めます。また、農業の6次産業化を図り、滑川町独自の付加価値を高めることで、農業の魅力を高めていきます。

さらに、新たな企業誘致を図るとともに町内企業の継続性を支援し、経済の活性化を目指します。地域資源を生かした工業・商業・サービスの振興に努め、持続的な発展が可能な地域産業を築いていきます。



観光振興（納涼盆踊大会）

Building a Vibrant Community for Industry that Leverages the Town's Unique Features

In the area of agriculture, we support stable agricultural management while responding to changing times. In addition to further boosting the brand power of Yatsuda rice, we will work to turn agriculture into a sixth industry, increase added value, and enhance the attractiveness of agriculture. We will also strive to promote industrial, commercial, and service industries that make the most of local resources and to build local industries that can develop sustainably.

TOPICS

滑川らしい特産品開発「ころ柿」「ぼろたん」

かつて滑川町の特産品として、贈答用に都内の有名デパートにも並ぶほど人気を博した「武州ころ柿」。生産者が減り消滅の危機に陥りましたが、平成25年に復活させる取り組みが始まり、体に優しい自然な甘みを受けて、晩秋の田んぼに柿棚が並ぶ風景とともに見事に復活しました。一方、「ぼろたん」は加熱すると渋皮がぼろっとむけるよう開発されたクリ。町が栽培を積極的に支援し、年々生産量が増えて、今や滑川町の特産品となっています。



地域防災訓練

TOPICS

Creating a Comfortable Community that is Easy to Live in

Namegawa Town has a rural landscape with abundant nature in the northern part of the Town and a convenient living environment with easy access to the Tokyo metropolitan area in the southern part. The Town is gaining popularity, especially among the younger generation, and the population is increasing. In the future, residents, businesses, and the government will work together to preserve the environment and conserve resources. We will also strive to create an environment where people can live safely and with piece of mind by implementing demand-responsive transportation programs to support those who have difficulty getting around and by enhancing disaster preparedness and crime prevention measures.

だれもが暮らしやすい町へ「デマンド交通ターナちゃん」

主に高齢者や車の運転をしない方などの交通手段を確保し、移動の利便性の向上を図るために、町では指定された時間に指定された場所へ送迎するデマンド交通サービスを実施しています。週5日運行し、町内全域および滑川町境に隣接している医療機関へも利用可能。登録し、予約を取れば、自宅から目的地までドアツードアで利用できます。家の近くに路線バスが通らない方や運転免許を返納した方はもちろん、だれもが移動に困らないまちづくりに役立っています。





町議会

ピカツと輝くまちへ
これからの
まちづくり

6

ASSEMBLY / ADMINISTRATION

行政・議会

令和7年度までの目標を定めた「第5次滑川町総合振興計画」の後期基本計画が進行中です。行政運営はこの計画に基づき、行政運営の効率化を図るとともに、効果的な施策の実現を目指します。

議会は、選挙によって選ばれた14人の議員で構成され、町民の意見を正しく把握し、反映させながらまちづくりを進めています。定例会議は年4回開かれ、必要に応じて臨時議会も招集されます。議会は公開され、誰でも傍聴できるほか、音声配信しており、審議内容や結果を「議会だより」でお知らせしています。



執行部 町長/大塚信一 副町長/小柳博司 教育長/上野 修



議長/吉野正浩 副議長/松本幾雄

Administration and Assembly

Regarding administrative management, based on the late-stage basic plan of the 5th Namegawa Town Comprehensive Promotion Plan, we aim to improve the efficiency of the Town's administrative management and implement effective measures. The Assembly advances community development while properly understanding and reflecting the opinions of Town residents. Regular plenary sessions of the Assembly are held four times a year, and extraordinary sessions are also held as necessary. Assembly sessions are open to the public, so anyone can observe the meetings and receive announcements via audio streaming or the Assembly Newsletter.

都市交流

宮城県松島町・富山県上市町・岐阜県笠松町・千葉県東庄町

宮城県松島町との交流は、平成23年に東日本大震災の支援を機に始まり、平成24年4月から令和元年度まで復興支援のために滑川町の職員を松島町へ派遣。同年11月には災害相互支援協定を締結し、平成26年7月に相互交流宣言に調印しました。

また、平成26年8月には富山県上市町、同年12月に岐阜県笠松町、平成27年10月には千葉県東庄町と、それぞれ災害時相互応援協定を締結しました。災害発生時等の安心・安全のために、幅広い地域との応援協定を進めています。



滑川まつりに出店し、交流を深める宮城県松島町



役場庁舎ロビー総合案内

ピカツと輝くまちへ
これからの
まちづくり

5

COMMUNITY / PARTNERSHIP

町民との協働による自立可能なまちづくり

変化の激しい社会情勢の中、満足度の高い行政サービスの提供と、行政規模に見合った社会資本の最適化という両輪を効果的に進める戦略的な施策・事業の展開が求められています。そこで、町民と行政が一体となって滑川町の未来を見据え、持続可能なまちづくりを進めます。

町民視点と町民ニーズの的確な把握を行うとともに、地域ごとに異なる実情を踏まえつつ、質を重視したまちづくりを進めます。町民の利便性を考慮し、行政サービスのデジタル化を進めるなど、行政サービスの最適化にも努めます。

また、施設の統廃合や複合化・集約化、再配置などを計画的に行い、公共施設の管理及び配置の最適化を進めます。

さらに、長期的なスパンで滑川町の魅力を高める施策・事業を展開し、戦略的な取組を進めます。



民生委員のあいさつ運動



広域連携

Building Self-sustaining Communities in Collaboration with Town Residents

The residents and government of Namegawa Town will work together in looking ahead to the Town's future as we promote sustainable community development. We will strive to optimize administrative services while accurately grasping the needs of residents and considering their convenience. We will also optimize the management and location of public facilities. Furthermore, we will develop measures and projects to enhance the attractiveness of Namegawa Town over the long term.

TOPICS

民間との連携で地域コミュニティ創出「移動販売車うえたん号」

滑川町は、令和5年10月にウエルシア薬局株式会社と「支え合いによる地域づくり等に関する連携協定」を締結。令和6年3月から、移動販売車の運行を開始しました。町内を巡回し、食料品や日用品などの生活必需品を販売するほか、薬剤師や管理栄養士等とオンラインでの健康相談も受け付けています。

地域住民のつながりの輪を広げる役割や、ドライバーによる地域の見守りも期待されています。

